

1 本市の現状

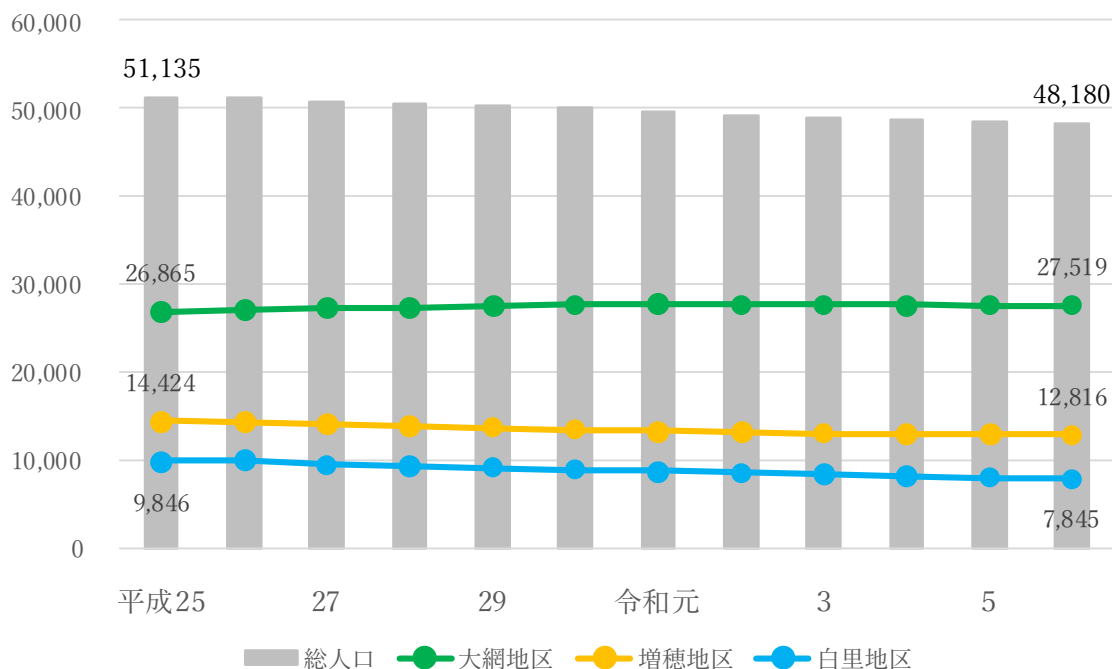
(1) 人口動向

市の総人口は平成25年に51,135人でピークとなり、その後は毎年減少を続けて、令和6年には48,180人で、約10年間で約3,000人減少しています。市内の地域別にみると大網地区は微増を続けているものの、白里地区では2割以上減少しています。

人口の減少は全国的な傾向で、今後も減少傾向は継続的に続く見込みであり、地域活力の衰退が懸念されます。

また、年齢区分別では、10年間で0～14歳の年少人口は約1,000人、15～64歳の生産年齢人口は約4,000人減少している一方で、65歳以上の老年人口は約3,000人増加しており、少子高齢化が進展しています。

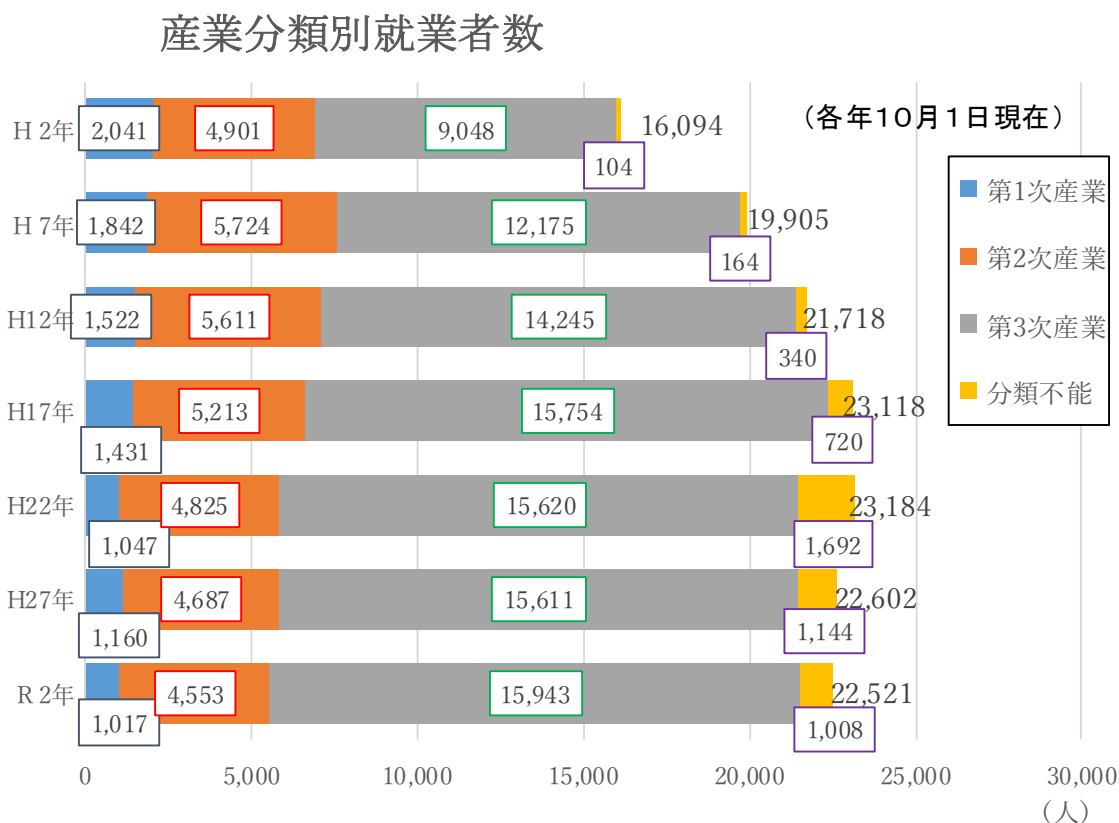
これらの状況に対応すべく、今後は若者世代の定住人口の維持や拡大をはじめ、市外からの観光客等の交流人口の拡大や高齢者が元気にいきいきと暮らすことができる社会づくりが必要であると考えられます。



総人口と地区別人口推移

(2) 産業の状況

本市の産業就業者数は平成22年をピークに少しずつ減少している。なかでも第1次産業は30年前と比べると就業者数は半減している。



① 農業・水産業

農業従事者の高齢化や後継者等の担い手の減少、遊休農地の増加等、農業を取り巻く現状は厳しい状況にあります。都市近郊の立地条件を活かした農業振興への再構築が必要となっています。

担い手の不足と耕作放棄地対策といった農地の問題を一体的に解決するため、地区ごとにその将来の方向性を示す「地域計画」の策定を進めています。持続可能な力強い農業を実現するため、地区内の中心経営体への内の集約化を図るなど、対策が必要となっています。

水産業においては、近海で獲れる魚の干物や煮干しなどで賑わいをみせた水産加工業者は年々減少傾向にある。一方で九十九里漁業協同組合が主体となって貝類漁業の振興を図っており、九十九里浜で水揚げされるチョウセンハマグリや煮干し、田作りが千葉ブランド水産物に認定されており、今後さらなるPRにより消費拡大を図る必要があります。

農業・水産業いずれにあって従事者の高齢化や後継者不足の対策は喫緊の課題であり、若い世代の就労・就農に繋がるような、農水産物のブランドの創造や、6次産業化による経営の多角化の推進が望まれるところである。

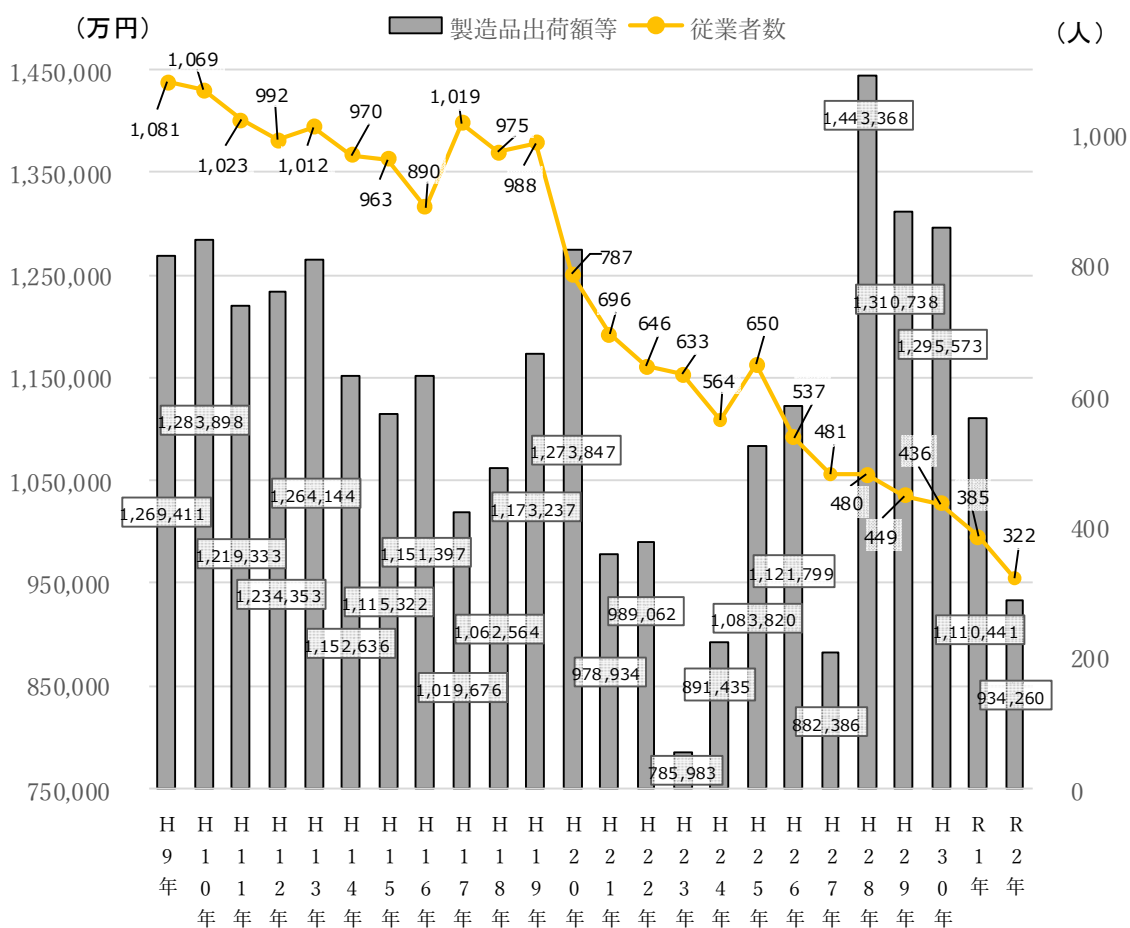
② 商工業

商工会を主体にさまざまな商業振興策に取り組んでいますが、隣接他市への購買力の流出が多く、旧来からの商店は空き店舗が増加するなど、商業を取り巻く環境は厳しくなっています。

本市の工業は、食料品製造業が主体で事業者数、従業者数ともに減少しています。

また、駅近郊や国道沿線は新たな商業施設の進出がみられるものの、白里地域ではスーパーが閉店し、買い物に不便を感じている方々がいるなど、日常生活の利便性の低下がみられます。

工業の状況



(3) 観光の現状

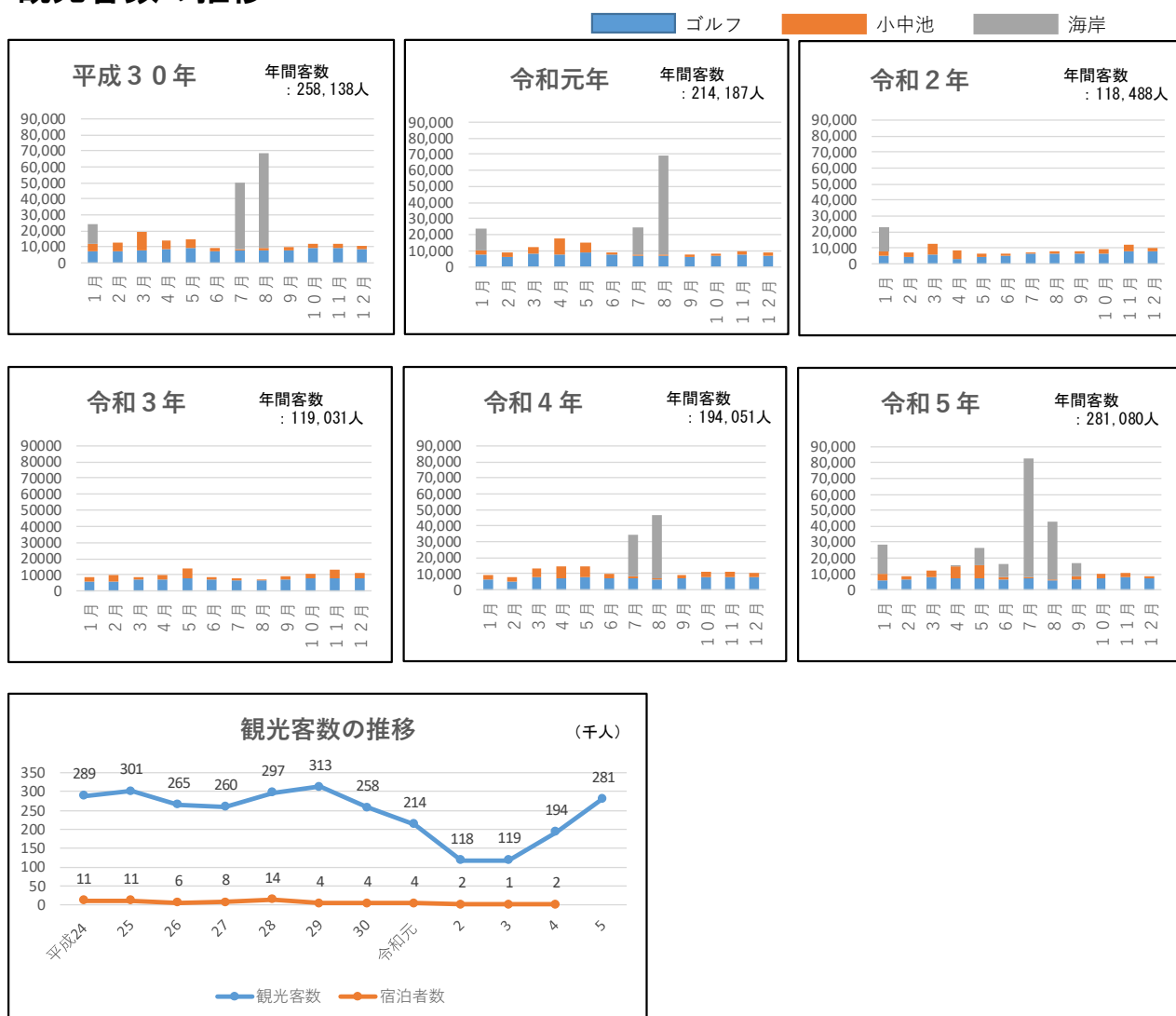
本市の観光資源については、海水浴やサーフィン・ジェットスキーなどの海のレジャーに加え、ため池百選にも選ばれた小中池公園、都内からのアクセスに優れたゴルフ場などが挙げられます。

本市最大の観光資源である海水浴場は、レジャーの多様化により観光入込客数は減少傾向にあります。

人口減少や高齢化に対応していくためには、定住人口の維持・拡大に努めることはもとより、観光客等の交流人口を増大させることも、地域活力を支えるうえで重要な事項となります。

一年を通して訪れることができる通年型観光への転換を図り、地場製品の販売拠点や地元市民も楽しめる施設を整備し、観光案内などの積極的な情報発信を図っていくことが必要となっています。

観光客数の推移



2 白里地域の活性化に向けた課題整理

(1) 白里地域の活性化を考えるワークショップ

市では、人口減少や少子高齢化が進む白里地域の活性化の起爆剤となる道の駅の整備検討に当たり、市民をはじめ多くの方々の意見や提案を伺うため、以下の日程でグループ討議によるワークショップを開催しました。

場所	日時
中央公民館講堂	・令和6年4月14日（日）10時～ ・令和6年4月16日（火）18時30分～
農村環境改善センター	・令和6年4月 9日（火）18時30分～ ・令和6年4月21日（日）10時～

(2) 白里地域の強み・弱み

前述のワークショップで出された意見をもとに、白里地域の強みと弱みを整理しました。

	ポジティブ	ネガティブ
内 部 環 境	【強み】 海（太平洋） きれいな砂浜 海に構造物がない 月の道 自然が豊か 田園風景 空気がきれい のどか 夜が静か 星がきれい 日の出 水産加工業 みりん干し・いわし なめろう・干物 はまぐり・ながらみ あじフライ 海の家 人柄がいい ががメ、はまひるがお 釣りができる（ハゼ） 天然ガス、かん水、 マリンスポーツ ヨード ビーチバレー・ビーチボ おいしい食堂 農業が盛ん 古民家 散歩コース 気候（夏涼しく冬暖かい） 白里の歴史文化（絵馬・鯛・織物・檀林等）	【弱み】 人口減少 少子高齢化 交通不便 目玉となる施設がない 買い物不便 人の集まる場所がない 水産業の衰退 空き家・空き地が多い 民宿の廃業 津波の心配 財政が厳しい 関心が低い 情報発信不足 イベントが少ない 病院などの利便施設が少ない 白里の魅力に気づいていない 観光資源を活用していない
外 部 環 境	【機会（チャンス）】 都心からのアクセスの良さ（電車） 成田・羽田空港までのアクセスの良さ（車） 有料道路のICから近い バイクツーリストが多い 都心から一番近い太平洋 九十九里海岸の中央 サーファーが来る 観光エリア（九十九里町・白子町）に隣接 合宿地（大学生が来る） 九十九里ブランド サンライズ九十九里に近い 地価が安い 二地域居住の推進 リモートワークの普及 デジタル化の推進	【脅威】 周辺地域との競合 周辺地域の過疎化 海水浴離れ 観光客の減少 海岸浸食 若者の車離れ 海洋資源の減少 若者の流出

(3) 白里地域の活性化に必要な戦略

前述のワークショップで出された意見をもとに、白里地域の強みと弱みを分析し、白里地域の活性化に必要な戦略を整理しました。

白 里 地 域 の 内 部 要 因		
【市の将来像】 『未来に向けてみんなでつくろう！ 住みたい・住み続けたいまち』 ①誰もが健康で思いやりのある暮らしを育むまち ②将来を担う子供達を育み生涯を通じて学ぶまち ③誰もが快適に暮らせるまち ④人と自然が調和したまち ⑤誰もが安全に安心して暮らせるまち ⑥にぎわいと活力のあるまち	【強み】 海(太平洋)、きれいな砂浜、海に構造物がない、月の道、自然が豊か、田園風景、空気がきれい、のどか、夜が静か、星がきれい、日の出、水産加工業、みりん干し、いわし、はまぐり、なめろう、あじフライ、干物、ながらみ、海の家、白里の歴史文化(絵馬・輪・織物工場・櫓林等)、人柄がよい、釣りができる(ハゼ)、ウミガメ、はまひるがお、マリンスポーツ、ビーチバレー、ビーチヨガ、農業が盛ん、天然ガス、かん水、ヨード、気候(夏涼しく冬暖かい)、おいしい食堂、古民家、散歩コース	【弱み】 人口減少、少子高齢化、交通不便、目玉となる施設がない、観光資源を活用していない、買い物不便、空き家・空き地が多い、人の集まる場所がない、津波の心配、白里の魅力に気づいていない、関心が低い、イベントが少ない、情報発信不足、水産業の衰退、民宿の廃業、病院などの利便施設が少ない、財政が厳しい
【機会(チャンス)】 都心からのアクセスの良さ(電車) 成田・羽田空港までのアクセスの良さ(車) 有料道路のICから近い バイクツーリストが多い 都心から一番近い太平洋 九十九里海岸の中央 サーファーが来る 観光エリア(九十九里町・白子町)に隣接 合宿地(大学生が来る) 九十九里ブランド サンライズ九十九里に近い 地価が安い 二地域居住の推進 リモートワークの普及 デジタル化の推進	【強み×機会】 - 農産物の直売、特産品の販売 - 都心と大網白里を繋げる交流拠点 - 九十九里ブランドを活用した広域連携 - 海を活かしたレジャーの提供 - サーファー向けの施設整備 - マリンスポーツの活用、マリンスポーツ大会の誘致、スケートボード場の建設 - 外房地域を訪れた来遊客の休憩所(ドライブ、ツーリング、サイクリング)、お土産の買える施設 - ドライブ・ツーリングの目的地化(バイクツーリングスポット等) - 広域的なサイクリングコース、ランニングコース - 海岸のインフラ整備、ウォークアブルなビーチストリート - 天然ガス、ヨードを利用した温浴施設 - 空港からの車のアクセスの良さを利用したインバウンドによる集客 - 車中泊ができる場所の整備 - 城西国際大学との連携 - 各種イベントの開催(食・音楽・レジャー) - 海や自然を活かした取組(日の出・夜空・動植物) - 古民家再生(ショップや飲食店など)	【弱み×機会】 - 一年を通して訪れることができる施設 - 企業誘致、雇用の拡大 - 情報発信機能の強化 - 子育て環境の充実、キッズエリアの整備 - 空き地・空き家の活用 - 道の駅、観光交流拠点、地域交流拠点、文化施設(図書室)など - おしゃれなカフェ・飲食店 - 交通の利便性向上 - 買い物不便の解消、買い物拠点 - ペット関係施設 - キャンプ場やRVパークの開設 - 民泊の推進
【脅威】 周辺地域との競合 周辺地域の過疎化 海水浴離れ 観光客の減少 海岸浸食 若者の車離れ 海洋資源の減少 若者の流出	【強み×脅威】 - おもしろい海の家、通年型の海の家 - 魅力ある個人店、オンリーワンなお店と連携 - 白里の歴史文化を活かした観光(ストーリー作り) - 農業体験や観光農園 - 特産品の商品開発 - 白里ブランドをつくる(地域との差別化) - 海のカルチャーセンター、ヨガスクール - 街並みの整備 - 自然環境の保護	【弱み×脅威】 - 防災道の駅、防災拠点 - 移住定住の推進 - 住みやすさの改善(交通インフラ・社会インフラの整備) - 交流人口の増加に伴う公共交通の維持継続 - 水産加工業の継承 - 多世代交流のできる場の提供 - 地域コミュニティの活性化、人とのつながりを強める - 財政改善、財源確保・将来に負担を残さない配慮

(4) 白里海岸来訪者アンケート

白里海岸来訪者が白里海岸周辺に求める施設やニーズ等を把握するため、アンケート調査を実施しました。

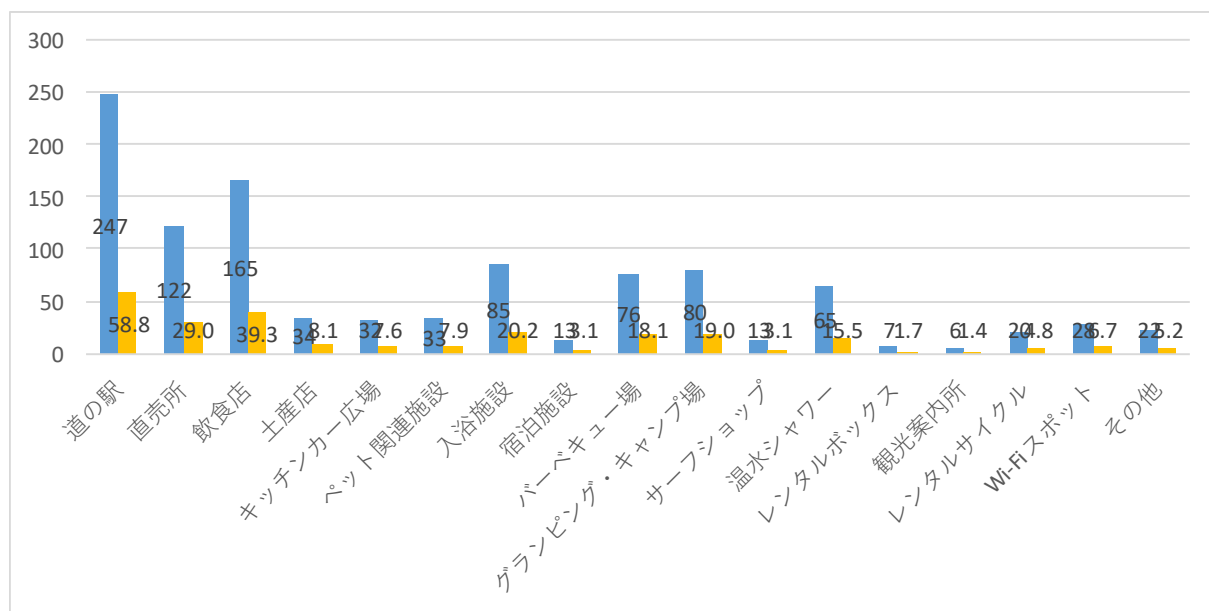
内 容	調査
調査対象	白里海岸来訪者
調査期間	令和5年5月3日・4日
調査方法	対面によるアンケート用紙配布調査
調 査 数	420件

(5) アンケート結果

(質問1) 白里海岸付近にあったらいい・充実してたらいいと思う施設

※一人3つまで

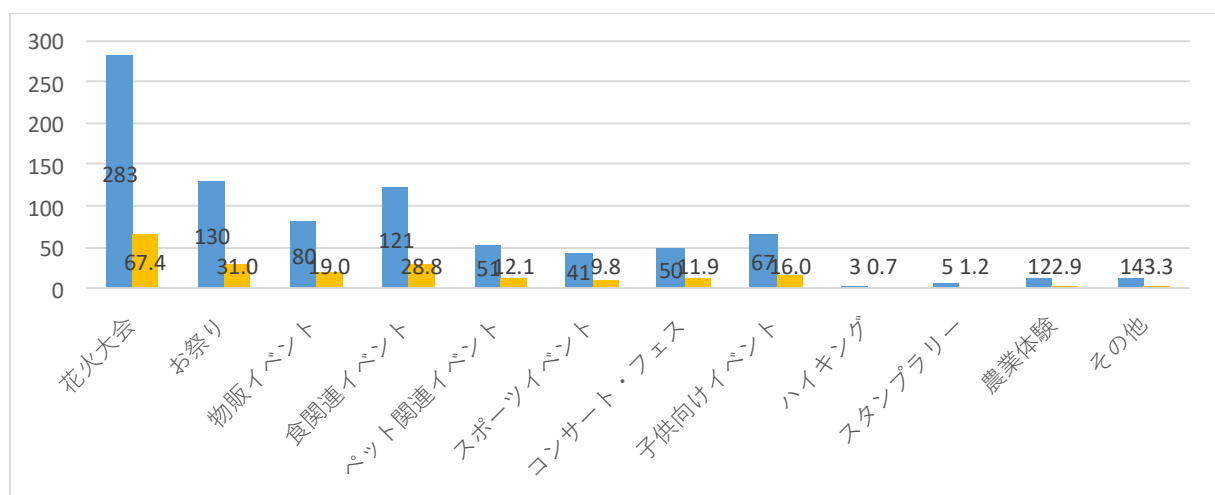
項目	件数	割合(%)
道の駅	247	58.8
直売所	122	29.0
飲食店	165	39.3
土産店	34	8.1
キッチンカー広場	32	7.6
ペット関連施設	33	7.9
入浴施設	85	20.2
宿泊施設	13	3.1
バーベキュー場	76	18.1
グランピング・キャンプ場	80	19.0
サーフショップ	13	3.1
温水シャワー	65	15.5
レンタルボックス	7	1.7
観光案内所	6	1.4
レンタルサイクル	20	4.8
Wi-Fiスポット	28	6.7
その他	22	5.2



(質問2) 白里海岸付近で開催していただいたいと思うイベント

※一人3つまで

項目	件数	割合(%)
花火大会	283	67.4
お祭り	130	31.0
物販イベント	80	19.0
食関連イベント	121	28.8
ペット関連イベント	51	12.1
スポーツイベント	41	9.8
コンサート・フェス	50	11.9
子供向けイベント	67	16.0
ハイキング	3	0.7
スタンプラリー	5	1.2
農業体験	12	2.9
その他	14	3.3



3 道の駅制度の概要

(1) 「道の駅」誕生の背景

国土交通省は、以下の状況を背景として、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」の3つの機能を併せ持つ休憩施設「道の駅」の制度が誕生したと説明しています。

■ 背景①

長距離ドライブが増え、女性や高齢者のドライバーが増加するなかで、道路交通の円滑な「ながれ」を支えるため、一般道路にも安心して自由に立ち寄れ、利用できる快適な休憩のための「たまり」空間が求められている。

■ 背景②

人々の価値観の多様化により、個性的でおもしろい空間が望まれており、これら休憩施設では、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用し多様で個性豊かなサービスを提供することができる。

■ 背景③

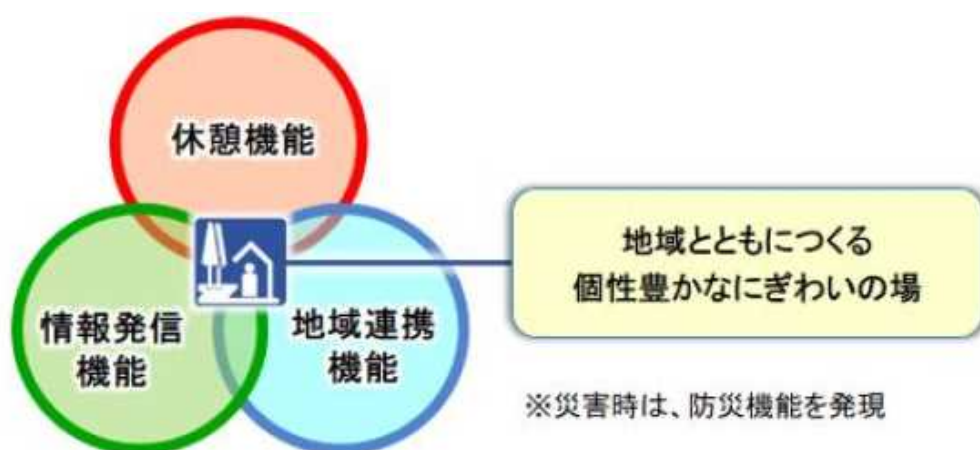
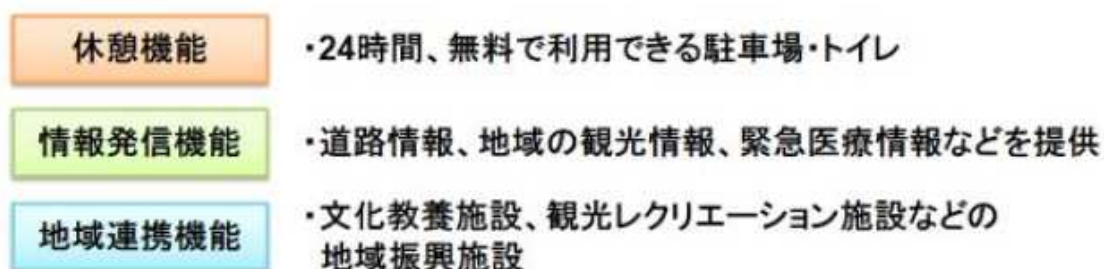
さらに、これらの休憩施設が個性豊かなにぎわいのある空間となることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待される。

(2) 国土交通省が考える「道の駅」の目的と機能

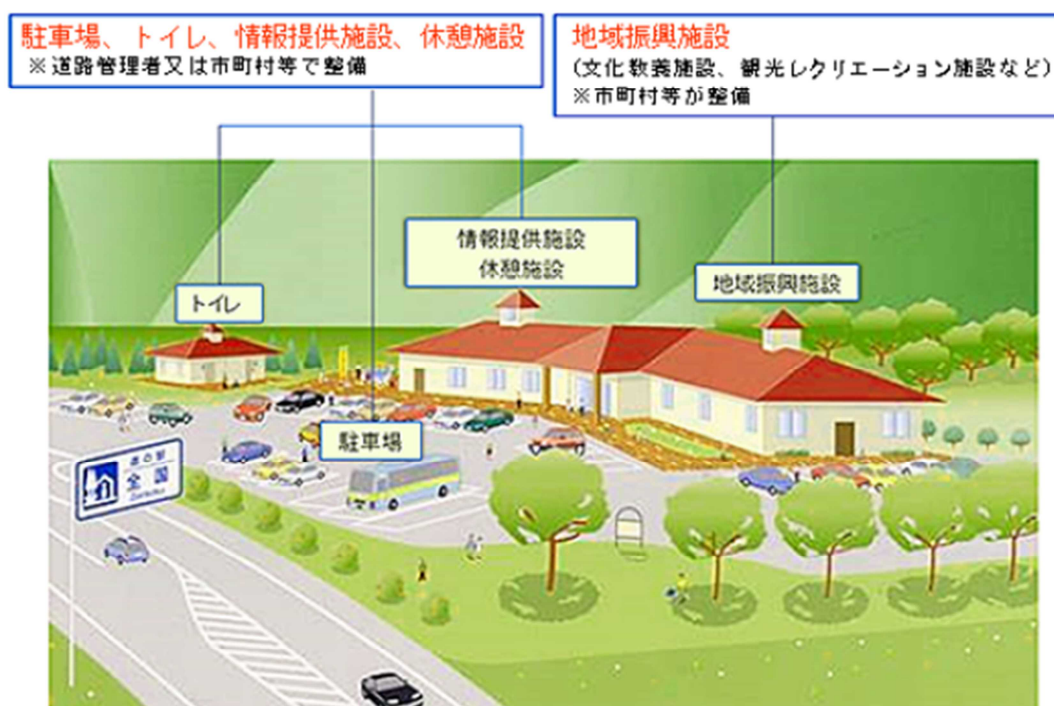
① 「道の駅」の目的

- 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- 地域の振興に寄与

②「道の駅」の基本コンセプト

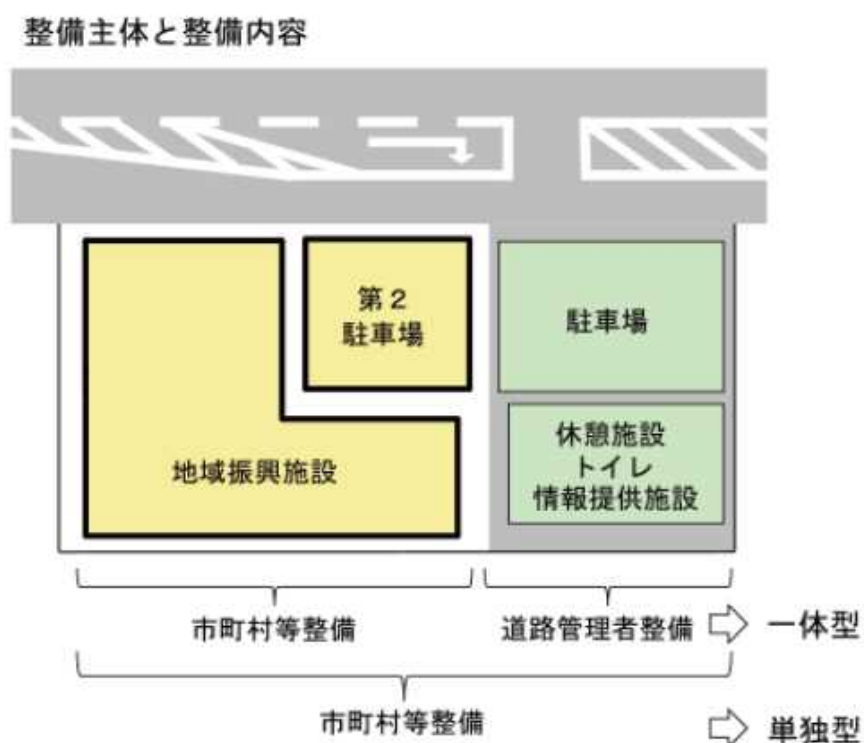


(3)「道の駅」の施設配置



(4)「道の駅」の整備主体と整備方法

● 整備主体	市町村又はそれに代わり得る公的な団体が設置
● 整備方法	道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」と市町村で全て整備を行う「単独型」の2種類



(5)「道の駅」の登録要件

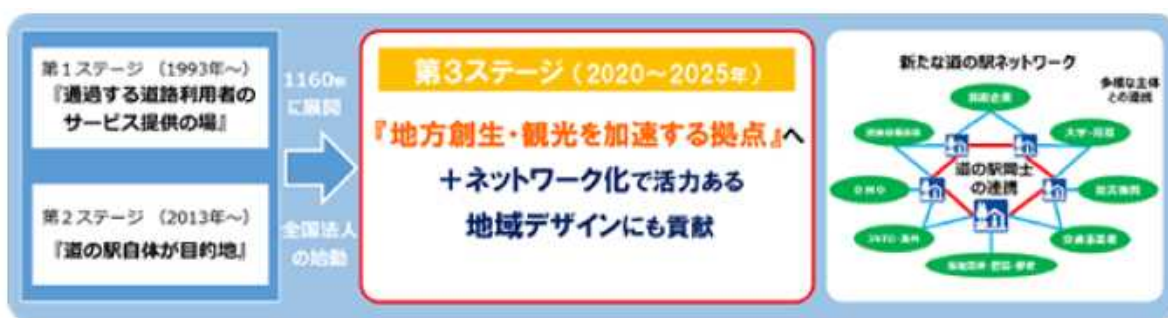
●休憩機能	利用者が無料で24時間利用できる①十分な容量を持った駐車場、②清潔なトイレ(原則、洋式)、③子育て応援施設(ベビーコーナー等)
●情報発信機能	道路及び地域に関する情報を提供 (道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等)
●地域連携機能	文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設
●その他	施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化
●設置者	市町村又は市町村に代わり得る公的な団体 ※ 都道府県、地方公共団体が三分の一以上を出資する法人、市町村が推薦する公益法人又は市町村から土地・建物の貸与を受け、市町村と管理運営についての協定を締結する法人

(6)「道の駅」第3ステージ

国土交通省は、「道の駅」第3ステージとして、新たなコンセプトを掲げています。

■各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速します。

■「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献します。



「2025年」に目指すの3つの姿

1. 「道の駅」を世界ブランドへ	2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に	3. あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに
<主な取り組み> ●海外プロモーションの強化 ●外国人観光案内所の認定取得やキャッシュレスの導入 ●風景街道等と連携した観光周遊ルートの設定 ●観光 MaaS(アプリで交通と観光施設を案内)	<主な取り組み> ●広域的な防災拠点となる「防災道の駅」認定制度の導入と重点支援 ●地域防災力の強化のためのBCP策定や防災訓練等の実施	<主な取り組み> ●子育て応援施設の併設 ●自動運転サービスのターミナル ●大学等との連携によるインターンシップや実習(商品開発等)

4 道の駅整備の関連計画における位置づけ

市では、「大網白里市第6次総合計画」、「大網白里市観光ビジョン」に道の駅の整備を位置づけています。

関連計画	関連項目
大網白里市 第6次総合計画	前期基本計画 第1章第6節 にぎわいと活力のあるまち【産業・観光の振興】 施策(1)資源・基盤の整備 ① 拠点の整備 ● 地場産物の販売拠点や地元市民も楽しめる施設を備えた <u>道の駅</u> などの地域交流拠点の整備を検討するとともに、観光案内や情報提供の充実を図ります。
大網白里市 観光ビジョン	Ⅲ 将来に向かっての目標 2 基本戦略 戦略②「拠点」の整備 白里地区「海浜レクリエーションゾーン」・「交流レクリエーションゾーン」に、地場産品の販売や地元市民も楽しめる施設を備えた <u>道の駅</u> などの地域交流拠点の整備を検討するとともに、観光案内や情報提供の充実を図ります。

5 道の駅整備の必要性和目的

(1) 道の駅の必要性

道の駅は、地方創生の拠点として、全国の様々な地域において、その地域が抱える課題の解決に活用されています。

本市においても、地域の課題を解決する一つ的手段として、道の駅を活用することが可能であり、その点からも道の駅の整備は、本市にとって必要な施策であると考えられます。

課題	道の駅の活用方法
人口減少・少子高齢化	道の駅を整備することにより、市内外から多くの人が集い、交流できる場を創出し、関係人口や交流人口の拡大を図ること で、その先の移住・定住につなげる。
農水産業の担い手不足	農水産物のブランド創造や6次産業化を進める道の駅を整備 することにより、若い世代の就労・就農の場を創出し、担い手 不足の解消につなげる。
買い物場所の不足	市の特産品をはじめ、農水産物や日用品などを販売する道の駅 を整備することにより、地域住民の日常生活の利便性の向上に つなげる。
通年型観光への転換	市内外から世代を超えて多くの人を訪れ、楽しめる道の駅を整 備することにより、海水浴シーズンだけではなく、一年を通し て訪れることができる通年型観光への転換につなげる。
情報発信の不足	道の駅を通して、地域の観光資源や特産品の魅力を市内外に広 く発信していくことにより、多くの人に大網白里市の良さを知 ってもらう。
多世代交流の機会の減少	道の駅を整備し、市内外から世代を超えて多くの人が集まれる 場所を提供することにより、社会的孤立を防ぎ、交流機会の増 加につなげる。
子どもの遊び場・居場所	道の駅にキッズエリアや体験学習スペースなどを設けること により、親子が安心して楽しめる場所を提供し、子育て支援に つなげる。
健康寿命の延伸	地元の食材を使った健康的な食事をはじめ、気軽に歩くことが できる環境や、日頃の疲れを解消する癒しの場を提供する道の 駅を整備することで、訪れる人の健康づくりを支援する。
地域の歴史や文化の継承	道の駅を通して、市内外から訪れる人に大網白里市の歴史や文 化を伝え、体験してもらうことにより、後世に引き継いでいく。

災害の心配	防災機能を備えた道の駅を整備することにより、災害時の防災拠点として、地域の暮らしや市外から訪れた人の安全と安心を支える。
-------	--

(2) 道の駅整備の目的

本市の貴重な観光資源である「九十九里浜の美しく豊かな自然」や、地域に暮らす人々の日々の営みにより築かれた「産業・歴史・文化」、そして、「道の駅に備わる本来の機能」を活かし、「市内外から訪れる人と人との交流を育む場」、「訪れる人の心身をリフレッシュする場」、「市内外に広く地域の魅力を発信する場」を創出することにより、本市の関係人口や交流人口の増加、農水産業や商工業の活性化、通年型観光への転換など、本市と地域が抱える課題を解決することを目的として、白里地域に道の駅の整備を図ります。

6 道の駅の整備のコンセプトと整備方針

本市における道の駅整備の必要性や目的を踏まえ、道の駅のコンセプトとそれを実現するための整備方針を以下のように定めます。

◆ 道の駅のコンセプト

『 未来につなぎ、未来をつくる 道の駅 』

大網白里市の将来像である『未来に向けてみんなでつくろう！住みたい・住み続けたいまち』の実現に向け、道の駅を通して、大網白里市が持つ自然・産業・歴史・文化を未来に継承し、道の駅を通して、地域が抱える課題の解決に取り組むことにより、大網白里市により良い未来を創造していくことを目指します。

◆ 道の駅の整備方針

- ① 地域の魅力を発信し、いつまでもにぎわいと活力にあふれる場
生産者と消費者をつなぎ、地場産業の成長を支える
- ② 地産地消を促し、持続可能な地場産業をつくる場
て
- ③ 次世代につながる子育てを応援し、地域や世代を超えた交流がうまれる場
- ④ 自然と親しみながら、誰もが永く健康でいられる憩いの場
- ⑤ 地域で育まれた歴史や文化を学び、伝え、後世につなぐ場
住む人も訪れる人も安心できる場
- ⑥ 防災力で地域の安全を守り、持続可能な地域社会をつくる場